

世界の食べ物についてのイメージ調査

21811135 小林拓視

21811379 四ツ車昌

1. 目的

世界の食べ物についてのイメージを質問紙調査によって測定し、世界の食べ物のイメージをつかさどる要因を探る。

2. 方法

形容詞対を用いた SD 法により、5 件法で調査する。

回答者は大学生

イメージ調査の内容は「世界の食べ物」について 10 種

ガパオライス カレー ハンバーガー パエリア 北京ダック タコス ベーコンエッグ ボルシチ 寿司 小籠包

3. 結果

ガパオライス	.893	.128	.051	-.020	-.159
カレー	.827	.105	-.148	-.048	.187
ハンバーガー	.225	.885	.163	.048	-.117
パエリア	.076	.637	-.347	-.057	.158
北京ダック	.025	-.101	-1.080	.035	-.105
タコス	-.308	.193	-.064	.976	-.008
ベーコンエッグ	.261	-.174	.034	.806	.048
寿司	-.221	.007	.045	-.094	1.008
小籠包	.320	-.085	.070	.207	.613

4. 考察

第 1 因子 (ガパオ・カレー) 「ご飯にかける系」

第 2 因子 (ハンバーガー・パエリア) 「陽気で明るいイメージのある国系」

第 3 因子「北京ダック」

第 4 因子 (タコス・ベーコンエッグ) 「肉のある軽食系」

第 5 因子 (寿司・小籠包) 「小さくまとまってる系」

となった。「ボルシチ」は分析から除外した。

・ハンバーガーも「肉のある軽食系」に入るかと思ったが一緒にならなかったのが少し予想と外れてしまった。

・北京ダックと小籠包は東アジア系出身で食べ物としてはメジャーである為、同じ因子となると予想していたが、それぞれ別の因子であり、食べ物の種類の違いが原因だと考える。